

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		環境にやさしい農業推進事業						予算事業名		園芸振興事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				06	01	04	1101	経常経費					
総合計画体系		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)						事業の区分		主要事業			
		3-1元気あふれる農業の振興(農業)											
		③農村環境の保全						担当課係等		農政課			
		1環境にやさしい農業推進								農業係			
事業期間		継続(平成19年度～年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
一斉防除が広く定着することで、農薬の削減と害虫被害が軽減し、環境に配慮した農業及びコスト削減による安定した農業経営が推進される。使用済農業用廃プラスチック類の収集等を協議し、農村環境の保全と園芸農家の健全な発展を目指す。							効果的な病虫害防除と農薬削減につながることから10年ほど前から開始された。環境に配慮した農業生産、安全・安心な農産物の安定供給が求められている。不法投棄が近年公害として社会問題となっている。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
市内にフェロモントラップを設置して害虫の発生状況を調査し、その結果を基に効果的な防除時期を予想し対象者に周知する。啓発活動を実施し、使用済農業用廃プラスチック類の収集・処理を適切に行う。							市内園芸農作物生産農家						
							【事業をとりまく環境の変化】 安心・安全で低農薬の農産物や環境に配慮した農業など、付加価値のある農業への関心が年々高まっている。						
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】					
オオタバコガ・ハスモンヨトウ各9箇所及びその他害虫を調査。使用済農業用廃プラスチック類の収集・処理。				オオタバコガ・ハスモンヨトウ各9箇所及びその他害虫を調査。使用済農業用廃プラスチック類の収集・処理。				オオタバコガ・ハスモンヨトウ各9箇所及びその他害虫を調査。使用済農業用廃プラスチック類の収集・処理。					
■事業費													
				H29年度		H30年度							
財源内訳	国庫支出金			0		0							
	県支出金			0		0							
	地方債			0		0							
	その他			0		0							
	一般財源			1,811		2,088							
歳入計(千円)				1,811		2,088							
歳出内訳	節(番号+名称)				金額(千円)		金額(千円)						
	09 旅費				70		101						
	11 需用費				310		306						
	14 使用料及び賃借料				13		26						
	19 負担金補助及び交付金				1,418		1,655						
	歳出計(千円)(A)				1,811		2,088						
伸び率(%)						15.29							
備考	総合計画97ページ 予算書117～118ページ												

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	フェロモントラップの設置	箇所	目標	9.00	9.00	9.00
	結果を基に効果的な防除時期を予想し対象者に周知する。		実績	9.00	0.00	0.00
	使用済農業用廃プラスチック類の収集回数	回	目標	3.00	4.00	4.00
	使用済農業用廃プラスチック類の収集		実績	3.00	0.00	0.00
成果 指標	病害虫の一斉防除回数	回	目標	2.00	2.00	2.00
	病害虫の一斉防除の実施		実績	2.00	0.00	0.00
	収集量	トン	目標	140.00	210.00	210.00
	使用済農業用廃プラスチック類の収集		実績	195.71	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	農業生産構造の強化、高品質で商品価値のある作物の生産が求められている。フェロモンについては、事業が定着しており、農家にとって必要性が高い。農業用廃プラスチック類の収集については、農村環境の保全と園芸農家の健全な発展に必要不可欠。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	フェロモンについては、市、県、農業協同組合で調査を行っているが、生産者への移行も視野に入れている。 農業用廃プラスチック類の収集については、生産者、市、農業協同組合で行っている。
	手段の妥当性	A 妥当である	フェロモンについては、十分な効果が得られているが、他害虫の調査の必要性について検討した。 農業用廃プラスチック類の収集については、市や農業協同組合が生産者に啓発指導した。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	フェロモンについては、設置個所の削減による人員及び経費削減の検討の余地がある。 農業用廃プラスチック類の収集については、市や農業協同組合が最小限に必要な人員を出して実施している。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	フェロモンについては、農家組合をととして、各農家への周知を行っている。 農業用廃プラスチック類の収集については、希望農家は誰でも参加できる。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	フェロモンについては、一斉防除の増加により、農薬の削減、害虫被害の軽減が図られている。 農業用廃プラスチック類の収集については、年々収集量が増加している。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	フェロモンについては、一斉防除を行う農家が増加している。 農業用廃プラスチック類の収集については、年々収集量が増加している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
環境問題に配慮し、新鮮で安全・安心な園芸作物に対するニーズに対応するには、生産者の育成や意識が重要であり、生産基盤強化や経営体への支援を農業協同組合などの関係機関と一体となって推進しながら、継続して実施していく必要がある。 フェロモンについては、有効性が高いが、効率を考えれば実施主体への移行を検討しなければならない。 農業用廃プラスチック類の収集については、処理費用が増えていて農家の負担が増えているので、不法投棄を増やさないために補助しなければならない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
フェロモンについては、実施主体の移行もしくは他害虫調査の優先順位を決め、事業を展開していく。 農業用廃プラスチック類の収集については、不法投棄を減らし適切な処分を促す啓発活動を推進していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 環境問題に配慮し、新鮮で安全・安心な園芸作物に対するニーズに対応するには、生産者の育成や意識が重要であり、園芸産地としての生産基盤強化や生産者への支援を農業協同組合等の関係機関と一体となり、改善を図りながら実施していく必要がある。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。